ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

円相場が大幅高　144円台半ば　リスクオフ継続で

7日早朝の東京外国為替市場で、円相場が大きく上昇している。8時30分時点は1ドル=144円41～44銭と前日17時時点と比べて88銭の円高・ドル安だった。前日に過去最大の上げ幅を記録した日経平均株価は7日に大きく反落するとみられており、市場のリスクオフ（回避）ムードが拭えず「低リスク通貨」とされる円には買いが優勢となった。

6日の米株式市場では主要3指数が反発した。だが、7日の大阪取引所では日経平均先物9月物が一時前日の清算値を900円あまり下回った。株価の不安定な動きは続く公算が大きく、市場では「相場のボラティリティー（変動率）が高止まりするなか、積極的に円売り・ドル買いを進める動きは限られている」（りそなホールディングスの井口慶一シニアストラテジスト）との声があった。

もっとも、円の上値を試す動きも鈍い。7日には日銀の内田真一副総裁が北海道函館市で開く金融経済懇談会で挨拶と記者会見をする。金融・資本市場の混乱を受けて日銀の利上げ姿勢に変化があるかが注目されており、発言を見極めたいとして持ち高を一方向に傾ける動きは鈍い。

円は対ユーロでも大きく上昇し、8時30分時点は1ユーロ=157円77～82銭と、同98銭の円高・ユーロ安だった。

ユーロは対ドルで横ばい圏で推移している。8時30分時点は1ユーロ=1.0924～25ドルと同0.0002ドルのユーロ安・ドル高だった。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

日経平均反落、一時900円超安　前日大幅高の反動で

7日前場寄り付きの東京株式市場で日経平均株価は反落で始まり、前日に比べ800円ほど安い3万3800円台前半で推移している。前日に大幅高となった反動で、半導体関連や自動車などに戻り待ちの売りが先行し、下げ幅は900円を超える場面があった。

6日の日経平均は4営業日ぶりに大幅に反発し、前の日に比べ3217円（10.23%）高の3万4675円と、1日の上げ幅としては過去最大だった。5日に過去最大の下げ幅を記録したあとの大幅高とあって、きょう以降も相場の乱高下が続くと身構える市場参加者は多い。持ち高の変動リスクの高まりを嫌気し、買い持ち高を圧縮する動きが続くとみられる。

半面、前日の米株高は投資家心理の支えとなっている。ダウ工業株30種平均は4営業日ぶりに反発し、前日比294ドル（0.76%）高の3万8997ドルで終えた。5日まで大きく下げた後の自律反発狙いの買いが入った。米エヌビディアが大きく上昇するなど、ハイテク株が堅調だった。東京市場ではディスコなど半導体関連の一角が買われている。

東証株価指数（TOPIX）は反落している。

ファストリやアドテスト、東エレクなどに売りが目立つ。リクルートとソフトバンクグループ（SBG）も下落している。一方、三菱UFJや三井住友FG、キヤノンが上昇している。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

世界景気懸念、商品市場を覆う　原油は半年ぶり安値

世界的な景気懸念が商品市場を覆っている。原油の国際指標は半年ぶり安値に沈み、非鉄も安い。7月中旬以降の下落要因だった中国景気の不安に加え、米国経済にも暗雲が漂ってきたためだ。一方で安全資産とされる金（ゴールド）は最高値圏にあり、投資家のリスク回避姿勢が鮮明だ。

5日の米ニューヨーク市場で米原油指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）は3日続落し、1バレル72.94ドルで取引を終えた。一時は71.67ドルと2月以来半年ぶりの安値をつけた。

欧州指標の北海ブレント原油先物も一時1バレル75ドル近辺と1月以来の安値に沈んだ。

背景にあるのは世界の国内総生産（GDP）や石油消費で1、2位を占める米国と中国の景気懸念という「ダブルパンチ」だ。

中国では7月中旬に発表された4～6月の実質GDPや1～6月の小売売上高といった指標が、軒並み経済の減速をうかがわせる数値だった。7月末に出た7月の総合購買担当者景気指数（PMI）も、新型コロナウイルスを封じこめる「ゼロコロナ」政策の終盤にあたる2022年12月以来の低水準となった。

これに米国の景気不安が追い打ちをかけた。2日に発表された7月の雇用統計では、市場の注目が高い非農業部門の就業者数は11万4000人増と市場予想（17万～19万人）を大きく下回り、失業率も4.3%と予想より悪い結果となった。

7月末、イスラム組織ハマスのハニヤ最高指導者がイランの首都テヘランで暗殺された。イランはイスラエル軍の犯行と指弾し、イスラエルに報復攻撃を仕掛ける姿勢を打ち出している。イランは世界の石油供給の2割が行き交う物流の大動脈であるホルムズ海峡に面している。

原油はドル建てで取引することが多い。一般にはドルが安くなれば他の通貨建てで見た原油の割安感が強まるため、買いが入りやすくなる。5日はドル安と原油安が同時に進んだ。

イランとイスラエルの緊張で原油供給が滞る懸念の高まりやドル安にもかかわらず、原油安が進んでいることは、需要減少への懸念が強いことを示している。

弱い雇用統計を受けて、米連邦準備理事会（FRB）が大幅な利下げに踏み切るとの見方が強まった。米長期金利は一時1年2カ月ぶりの低水準に低下し、ドルの総合的な強さを示すドル指数（DXY）も7カ月ぶりの安値に下がった。

みずほ銀行の江口侑希ヴァイスプレジデントは「中国に続き米国でも景気後退懸念が出たことで、需要が原油相場を押し上げていく道筋は見えにくくなっている」と話す。

非鉄相場も世界景気への懸念を映し出す。銅の国際指標となるロンドン金属取引所（LME）3カ月先物は5日、一時前週末比3.8%安の1トン8714ドルと約5カ月ぶりの安値をつけた。5月につけた過去最高値からの下落率は2割を超える。

銅は幅広い産業で使われ、需給や価格に景気動向がいち早く表れるとされる。マーケット・リスク・アドバイザリーの新村直弘共同代表は、5月までの上昇局面で積み上がった買い建玉（未決済残高）がまだ残っていると指摘。「米株価の急落で投資家心理が悪化するなか、投機筋が持ち高を減らしている」との見方を示す。

自動車や建材に使うアルミニウムも約5カ月ぶりの安値圏に沈み、亜鉛や鉛も軟調な地合いが続く。いずれも中国が最大消費国だが、米国での景気減速懸念に関心が向かうなか、リスク資産の一角として売られているとの指摘が多い。

一方で金の価格は強含んでいる。国際指標となるニューヨーク先物は2日、一時1トロイオンス2522.5ドルをつけ、最高値を更新した。日本時間の6日も2400ドル台半ばで推移している。

日本貴金属マーケット協会の池水雄一代表理事は「歴史的に金と株価は逆相関の関係にあり、株価が著しく下落した局面で瞬間的に金価格が下がっても、株の損切りで出た現金などで金が買われやすい」と指摘。「景況感の悪化や米利下げ期待の拡大が続けばさらなる最高値更新の可能性がある」とみる。

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

サウジ原油調整金3カ月ぶり上げ　9月積み　背景に中国不透明感

サウジアラビアの国有石油会社サウジアラムコは9月積みのアジア向け原油の調整金を3カ月ぶりに引き上げる。中国の景気不安などを受けた需給見通しの不透明感が背景にある。

2024年9月積みの
サウジ産原油の調整金
（1㍉あたりドル、＋は割増金、－は割引金、カッコ内は前月比増減額）

スーパーライト	＋2.95（＋0.2）
エキストラライト	＋1.70（＋0.1）
ライト	＋2.00（＋0.2）
ミディアム	＋1.25（－0.0）
ヘビー	＋0.50（－0.0）

代表油種「アラビアンライト」は8月積み比0.20ドル高い1バレル2.00ドルの割り増しと上げ幅は小幅だ。みずほ銀行の江口侑希ヴァイスプレジデントは「今後の需給を慎重に見極めたいとの判断から、調整金を大きく動かさなかったのではないか」と指摘する。

日本の石油会社がサウジと結ぶ長期契約の価格は、アジアで指標になっているドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格に、サウジが価格動向などを踏まえて油種ごとに設定する調整金を加減して決める。

最も軽質の「スーパーライト」は0.20ドル高の2.95ドル、「エキストラライト」は0.10ドル高の1.70ドルと、それぞれ8月積み比で引き上げる。中質の「ミディアム」と重質の「ヘビー」は据え置きとする。

7月の原油価格は、米国の利下げ期待から前半に上昇したものの、後半にかけては下落基調となった。中国で景気減速への懸念が生じたためだ。

供給面でも、石油輸出国機構（OPEC）プラスの一部産油国が、10月から日量220万バレルの自主減産を縮小するとしており、2025年にかけて供給が需要を上回る展開が見込まれている。

引用記事　**日経新聞**

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

兼松系、バイオ燃料を自社運航船で活用　廃食用油由来

兼松子会社で燃料販売を手がける兼松ペトロ（東京・千代田）は、自社が燃料を輸送する船舶でバイオ燃料の使用量を増やすと発表した。廃食用油由来のバイオ燃料と重油を混ぜた燃料が対象で、使用する燃料のうちバイオ燃料の割合を9月までに約2割へ引き上げる。将来は海運会社などへの販売も視野に入れる。

東京湾や名古屋港で運用している船舶に燃料を輸送する「バンカリング船」が対象。従来の燃料の重油に近隣で集めた廃食用油由来の燃料を5～15%混ぜて使った。エンジンへの影響を確かめながら段階的に引き上げ、名古屋港では9月までに対象の船で使うことができる最大の割合の24%にする。

廃食用油由来のバイオ燃料は二酸化炭素（CO2）排出量を抑え、トラックや航空機、船舶など輸送分野の脱炭素につながると期待されている。既存設備で使えるのがメリットで、船舶では商船三井系なども使用する。

引用記事　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　７　日　　担当　瀬谷

週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート（▲は円高）		円建て原油コスト	
		ドル／バーレル	前週比	ドル／円	前週比	円／ℓ	前週比
火曜日～月曜日	6/25～7/1	85.98	0.74	161.48	1.91	87.32	1.77
	7/2～7/8	87.57	1.59	162.35	0.87	89.42	2.10
	7/9～7/15	86.01	▲1.56	161.84	▲0.51	87.55	▲1.87
	7/16～7/22	84.77	▲1.24	158.58	▲3.26	84.55	▲3.00
	7/23～7/29	81.92	▲2.85	155.77	▲2.81	80.26	▲4.29
	7/30～8/5	79.54	▲2.38	151.23	▲4.54	75.65	▲4.61
水曜日～火曜日	6/26～7/2	86.02	0.28	161.91	1.98	87.59	1.35
	7/3～7/9	87.46	1.44	162.19	0.28	89.21	1.62
	7/10～7/16	85.86	▲1.60	161.21	▲0.98	87.05	▲2.16
	7/17～7/23	84.49	▲1.37	158.24	▲2.97	84.09	▲2.96
	7/24～7/30	81.52	▲2.97	155.24	▲3.00	79.59	▲4.50
	7/31～8/6	79.18	▲2.34	149.41	▲5.83	74.40	▲5.19

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート

引用記事　燃料油脂新聞